

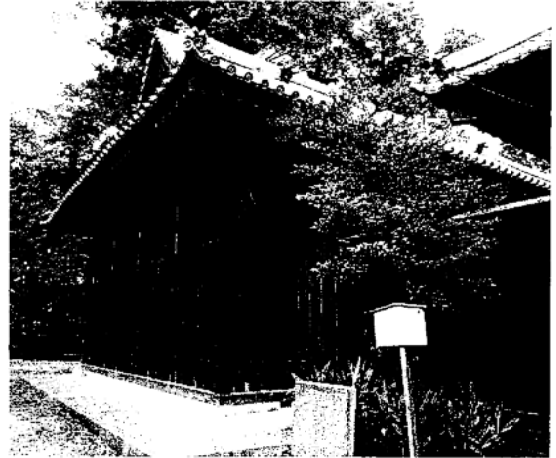
## 2. 吉沼八幡神社（茨城県指定文化財 所在地：つくば市吉沼 1456 番地）（写真 5）

『大穂町史』によると、吉沼八幡神社の祭神は誉田別命（ほんだわけのみこと）で、寛治元（1087）年、源義家が討奥の際に創建したという。天文4（1535）年に再興して、江戸時代末期までは真言宗玉蔵院の管理下にあった。

本殿は一間社流造で建築年代は不詳であるが、臺股麒麟彫刻の裏側に「貞享二年 四月 造玄之」「玉蔵院住持栄貞願主也」「彫物大工 武州江戸住本銀町」「嶋村八郎左衛門倅吉兵衛造之」と墨書が残されている。

嶋村吉兵衛俊濟は島村家初代俊元の息子で、謎に満ちた彫物師の一人である。その作品は、現在三例しか確認されておらず、そのうちの一社が茨城県に、その他一社一寺が千葉県に所在している。俊元の弟子三人のうち、俊元との関係性が『彫工世系図』以外で明らかになったのは俊濟だけである。俊濟が初代俊元を意識して彫刻を彫っていたのは明らかである。

俊濟の作風は、龍（写真6）の場合は硬い曲線と柔らかな曲線をほどよい調和でまとめている。作風を語るほど残された作品は多くはないが、千葉県に所在する狛犬などの作品はこなれた鑿跡で内線りまで丁寧に彫られており、曲線と曲面をみると圓鉄の彫りに似たおおらかさを持っている。



（↑写真5 吉沼八幡神社本殿外観）  
本殿は覆屋でおおわれている。



（↑写真6 吉沼八幡神社本殿龍）

今回の見学会にあたり、下妻市教育委員会の赤井博之様、つくば市教育委員会の広瀬様にご協力いただきました。また、吉沼八幡神社の塚越正章様には格別なるご高配を賜りました。ここに記して御礼申し上げます。